いきいき健康生活
鴻巣市広報「かがやき」　平成２０年３月１５日号 掲載
結核とＢＣＧ個別接種

結核は結核菌の飛沫感染（空気感染）によって感染します。
感染者のすべてが発病するわけではなく、結核菌と個体の免疫力の力関係で発病します。

感染してから長期間（数年～数十年に及ぶ）潜んでいた結核菌は、個体の免疫力が衰えたときに活性化して発病することもあります。

結核は早期に発見すれば化学療法で治せますが、治療には半年以上かかってしまう厄介な病気です。

又、最近では薬の効かない多剤耐性結核菌が注目されています。特に乳幼児においては、結核性髄膜炎や粟粒結核をおこすことが多く注意が必要です。

結核の予防には結核菌で自然感染する前にＢＣＧワクチンを接種することが重要になります。適切なＢＣＧワクチン接種で結核の発病を大幅に減らすことができ、その効果は１０年以上持続します。

ＢＣＧを出来るだけ早い時期（標準的には生後３か月から生後６か月に達するまで）に接種することが勧められます。従来は事前にツベルクリン反応検査を行い、陰性者が接種対象になっていましたが、平成１７年４月からはツベルクリン反応検査をしないで直接ＢＣＧ接種を行うことになりました。

今まで鴻巣市では保健センター等で集団接種を施行していましたが、平成２０年４月より個別接種となります。出来るだけ早い時期（生後３か月から生後６か月に達するまで）に、乳児の日頃の健康状態をよく把握しているかかりつけ医を受診して接種を受けることがより望ましいと思います。

この年齢時期はポリオや三種混合の予防接種と重なり接種時期が混同しますが、かかりつけ医や保健センターと相談して早期の接種をお願いしたいと思います。